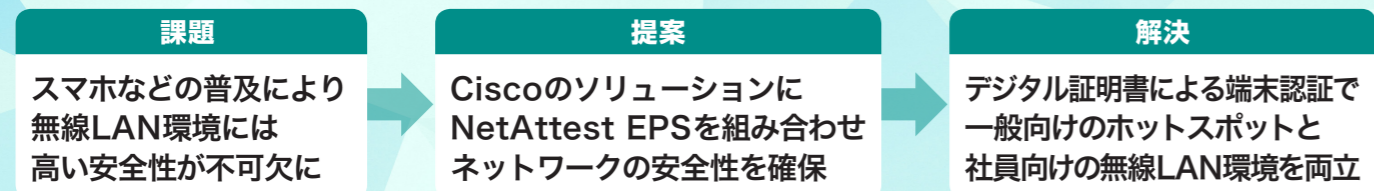


CISCO × NetAttest EPS

# デジタル認証でホットスポットとセキュアな無線LAN環境の共存を実現

スマートデバイスの普及によって社内のネットワークが無線LANに切り替わっていくなか、ホットスポットの導入にも徐々に注目が集まっている。無線LANの活用の幅を広げる意味でも、一歩踏み込んだハイレベルなセキュリティ機能が求められる。



## 無線化にセキュリティ強化は必須

多くの方がスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスを利用するようになり、無線LANネットワークのニーズは飛躍的に高まった。これにあわせて社内ネットワークの無線化が進む一方で、ホットスポット（公衆無線LANサービス）に対するニーズも日に日に増加しつつある。

しかし、無線化によってユーザーの利便性が上がっても、社内データのセキュリティをないがしろにしては元も子もない。従来のIDとパスワードによる認証のみで安全性を確保するのが難しい現状で、不

正アクセスや情報漏えいなどから身を守るためには、これまで以上のセキュリティ機能が必須となる。ましてや、外部からあらゆるユーザーがアクセスしてくるホットスポットの導入を考えてのであれば、必要不可欠と言えるだろう。

ICTインフラの提案や設計、販売、工事、運用・保守サービスなどをワンストップでトータルに提供する富士通エフサスでは、米Cisco Systems社の無線LANソリューションでユーザーの幅広いニーズに対応。さらに、多彩なネットワーク認証機能を持つソリトンシステムズの「NetAttest EPS」を組み合わせることで、高い安全性を兼ね備えたネットワーク環境を実現する。

## 幅広いラインナップが魅力

世界的なネットワーク機器の開発企業であるCiscoは、大規模な拠点から地方支社やサテライトオフィスまで、規模にあわせた幅広い製品をラインナップ。アクセスポイントでは、802.11ac Wave 1無線や3空間ストリームの4x4 MIMOをサポートするハイエンドモデル「Cisco Aironet 3700シリーズ」、802.11ac対応でコストパフォーマンスに優れた「Cisco Aironet 1700シリーズ」、802.11nに対応するコンパクトモデル「Cisco Aironet 700シリーズ」などを取りそろえる。また、ワイヤレスLANコントローラーにおいても、最大6000台のアクセスポイントに単体で対応できる「Cisco 8500シリーズ」、人気のスタンダードモデル「Cisco 5500シリーズ」、中小企業のワイヤレス機能管理に最適な「Cisco 2500シリーズ」などが選択できる。

そのほか、アプライアンス型の無線LAN管理製品として、ソフトとハードの一体型で導入する「Cisco Prime Infrastructure」も用意。アクセスポイントやコントローラーを一元管理できるほか、接続しているデバイスの位置を把握した

無線LAN  
アクセスポイント  
「Cisco Aironet 1700  
シリーズ」



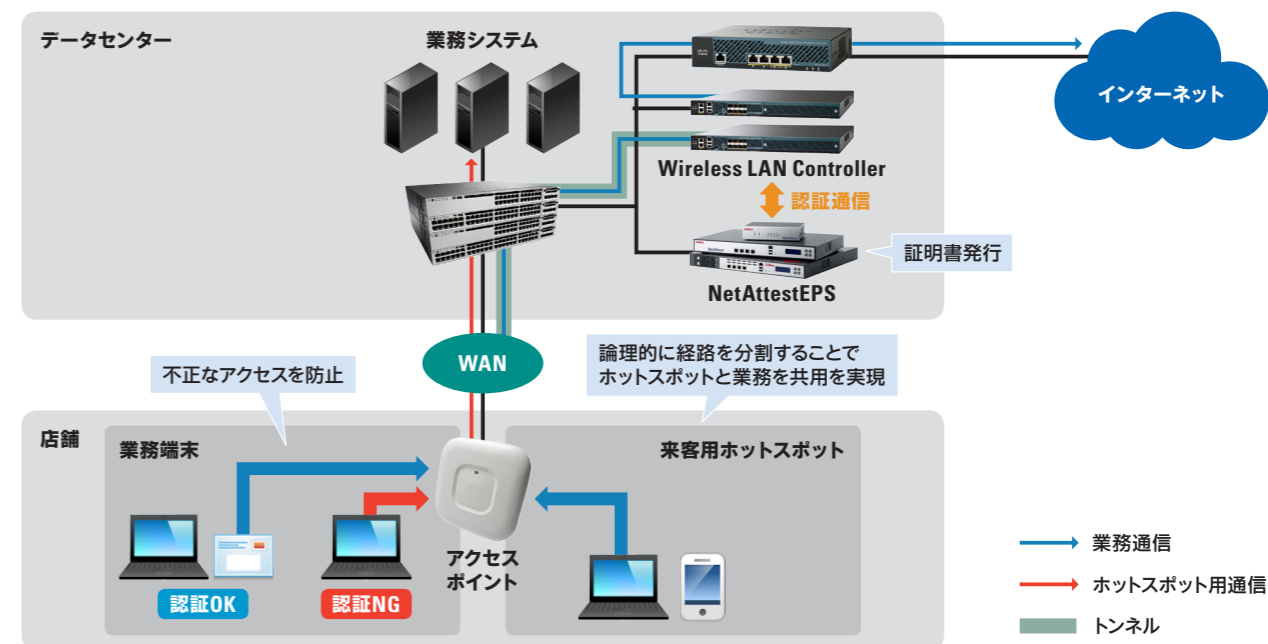
無線LANコントローラー  
「Cisco 8500シリーズ」



ネットワーク認証アプライアンス  
「NetAttest EPS」



## Ciscoの無線LANソリューションとNetAttest EPSシリーズで構築したセキュアな無線LAN環境のイメージ



り、電波状況をヒートマップで可視化したりする機能でネットワーク管理をサポートする。

## デバイス認証で安全性を確立する

Cisco製品で構築した無線LANネットワークに、デジタル認証機能で強固なセキュリティを確立するのがソリトンシステムズの「NetAttest EPS」だ。

NetAttest EPSは、デジタル証明書を発行・運用するプライベートCA機能を標準で搭載し、社内のネットワークにアクセスする端末を厳重に管理できるネットワーク認証アプライアンス。デジタル証明書はアクセスしている端末が許可されている端末かどうかを認証する重要なデータで、このデジタル証明書を持たないスマートフォンやタブレット端末はアクセスしてもネットワークの入口でブロックされる。通常のIDとパスワードによる利用者認証にこのデジタル証明書でのデバイス認証をプラスすることで、不正なユーザーや端末によるネットワークへの侵入を厳重に防止するわけだ。さらに、シャドーITによる社内からの不適切なアクセスを抑制するほか、スマートデ

バイスのさらなる活用を実現するBYODへの対応などにも大きな効果を発揮する。

また、ソリトンシステムズの「NetAttest D3」を組み合わせることで、無線LANネットワークソリューションのIPアドレスを快適に管理できるようになる。NetAttest D3は、DHCPとDNSに特化した専用アプライアンス。ネットワークにアクセスしてくるスマートデバイスへ自動的にIPアドレスを割り振ることで、ネットワークの柔軟な拡張性を実現する。もちろん、フリーアドレスを実施しているオフィスにも有効だ。

## ホットスポットとの同時構築も

さらに、CiscoのソリューションとNetAttest EPSを組み合わせた無線LAN環境では、従業員や社員が利用する高いセキュリティを備えた社内ネットワークと、一般ユーザー向けのホットスポットを同

時に構築することも可能。自動車ディーラーのショールームなどであれば、顧客にホットスポットを提供し、自身のスマートフォンで気になる情報をチェックしてもらえ一方で、社員はタブレット端末などで社内サーバーにアクセスし、カタログやデータなどの資料を確認できるようになる。社内のシステムにはNetAttest EPSの認証をクリアした端末しかアクセスできないため、顧客の利便性とネットワークの安全性をしっかりと両立できるわけだ。

そのほか、ホットスポットを提供することで、無線LANネットワークのさらなる活用方法も出てくる。例えば、ホットスポットを利用するユーザー向けに広告ページを表示したり、生年月日や性別などの顧客情報を収集する仕組みを組み込んだりすることも可能。マーケティングにも活用できるなど、ビジネスの多様性を広げてくれる。

【お問い合わせ先】  
株式会社富士通エフサス  
電話:0120-860-242  
URL:https://www.fujitsu.com/jp/group/fsas/contact/service.html